

イクシスLNGプロジェクトとCSR



イクシスLNGプロジェクト

Ichthys LNG Project

イクシスLNGプロジェクトは、西オーストラリア州において、2016年末までの生産開始を目指し、日本企業が初めて主導する初の大型LNGプロジェクトです。

イクシスの生産量

LNG **840** 万トン/年
(日本の年間輸入量の約10%)

LPG **160** 万トン/年

コンデンセート
(軽質原油) **10** 万バレル/日(ピーク時)

自然や地域に悪影響を与えない その言葉を肝に銘じ、環境許認可を取得

イクシスLNGプロジェクトの拠点となるダーウィンには、美しく豊かな海が広がり、伝統的な文化を持つ先住民族の生活が息づいています。大規模な開発であるだけに、自然環境や地域社会に対して、悪影響を与えることがあってはならない。それを肝に銘じながら、プロジェクトを進めています。

オーストラリア連邦政府と北部準州政府が共同で作成したガイドラインや徹底した調査に基づき、環境影響評価報告書を4年間かけて作成しました。2010年7月から、法令で定められた4週間の倍にあたる8週間にわたり環境影響評価報告書を公開するパブリックレビューを実施しました。あわせてダーウィンにて地域住民の理解を得るべく説明会を開催し、広く住民の方々から意見をいただきました。2011年4月に北部準州政府とオーストラリア連邦政府に寄せられた意見に対する回答書となる追加レポートを提出し、5月には北部準州政府、6月にはオーストラリア連邦政府から承認を得ました。

生物多様性や漁業にも配慮 地元の要望も取り入れながら作業を展開

イクシスLNGプロジェクトは生物多様性への配慮を、重大な課題として捉え取り組みを進めています。イルカやジュゴンといった希少な生物が生息するダーウィン湾で浚渫作業を行うにあたり、生態調査を実施し、オーストラリアの環境基準や国際基準を精査しています。加えて、環境への影響を少なくするために水中発破ではなく、特殊なカッターを備えた浚渫船で岩盤を削り取る方法を採用し、水の濁りなど環境への影響を随時モニタリングしながら作業を進めています。

また、ダーウィン湾の周辺には漁業や釣りに欠かせないパラマンディという魚が生息しています。ダーウィン湾に栈橋を建設するにあたり、地域コミュニティから、パラマンディの漁場へのアクセスを心配する声が上がったため、当初計画していた栈橋の長さを短くするなどして、地域住民の方々から漁場に安全かつ確実にアクセスできるよう作業計画を変更しています。地域住民の声に耳を傾け、漁場に与える影響を最小限に留めるよう配慮したことから、地域住民の方々からも賛同を得ることができました。

■ 環境影響評価(EIS*) 提出から環境承認まで



*EIS: Environmental Impact Statement (Report) オーストラリア連邦政府に提出する環境影響評価報告書

排出量削減とオフセット 2つのアプローチで温暖化を防止

天然ガスは化石燃料の中で最も環境にやさしいエネルギーです。イクシスLNGプロジェクトでは、CO₂をはじめとした温室効果ガスの削減に真摯に取り組み、オーストラリア連邦政府が設ける極めて高いレベルの排出抑制基準を満たすよう努力しています。そのため、LNG生産過程における温室効果ガスの排出抑制、実際に排出されたCO₂のオフセットの検討という2つの側面からアプローチをしています。

排出量削減策として、生産過程におけるエネルギー効率の最大化や余剰ガスの焼却時に出るフレアの量を削減するために最先端の技術を採用します。これらは陸上ガス液化プラントでコンバインドサイクル発電*のような方策を導入することで、大きな効果が期待できます。

また、CO₂をオフセットするために、2008年から西オーストラリア州においてユーカリの植林によるアセスメントプロジェクトを実施しています。加えて、北部準州では、先住民の伝統的な手法を用いて山火事を計画的に管理するサバンナ火災管理プログラムを計画しており、このプログラムの実施を通じて、CO₂のオフセットに加え、先住民の雇用機会の創出も期待されます。

*コンバインドサイクル発電: ガスタービンと蒸気タービンを合わせた熱効率がよく、CO₂排出量の少ない発電方式。

オーストラリア企業への 公正、公平な入札機会の提供

イクシスLNGプロジェクトの推進にあたっては、より多くのオーストラリア企業の参加により、地元と利益を共有できるような取り組みを強化しています。請負業者を選定する際には、オーストラリアの地元企業や先住民が運営する企業に公正な入札機会を提供し、より多くのオーストラリア製品・機材を使用することを表明している企業を優先するなどの具体的な評価基準も設けています。

お互いを尊重し協力しあう 先住民との良好な関係を構築

ダーウィン周辺には、オーストラリア先住民が多く暮らしています。「当社とダーウィン周辺の先住民はお互いに協力しあい、尊重しあっていく」という覚書を交わし、それに基づいてさまざまな支援、協力体制を整えています。たとえば、建設作業にあたっては、先住民の方々とともに先住民の遺跡調査を行い、文化遺産の保護に努めています。また、先住民

コミュニティやビジネス開発の取り組みへの支援協賛を行うなど、直接的な対話を通じて極めて良好な関係を築いています。

その代表的な例に、2011年4月に開校したララキア職業訓練校があります。充実した教育を受けて手に職をつけ、若い人たちの失業率を改善したい、という現地先住民の考えに賛同し、職業訓練校の建築費用として約2億円の寄付を行いました。青年層を中心に、電気工事や自動車整備、金属製作、配管など、専門的な知識を身につけるための教育を行っています。

80%以上の支持率 きめ細やかなコミュニケーション

イクシスLNGプロジェクトでは、前述のようにあらゆる側面で、地域社会への影響を考え、よりよい共存、共栄のための施策を行っています。そのなかで地域との密なコミュニケーションは不可欠です。プロジェクトの進捗に合わせて、頻繁に説明会を開催したり、地域の代表とミーティングを持つなど、常にお互いの生の声が聞こえ、顔が見えるような、親密な関係を構築しています。同時に、要望をいただいたことに対しては、最善の解決方法を見つけられるよう努めています。

こういった姿勢は地域住民の方々にも理解され、2011年から2012年にかけて数回にわたり実施した調査では、イクシスLNGプロジェクトを認知している住民のうち、常に80%以上がプロジェクトを支持している、という結果が出ました。今後も地域社会からの信頼を高め、良好な関係を保っていけるよう努力していきます。

Interview

Nigel Browne氏
Chairman Larrakia Development Corporation

ララキア職業訓練校の建設にあたり、INPEXからいただいた寄付は、北部準州の社会および経済の持続的発展、また、これからの世代へと受け継がれる友好の精神の構築に重要な貢献を果たしました。この訓練校は、さまざまな産業で必要となる職業訓練や資格を提供するもので、すべての北部準州住民に開かれた学校です。加えて、読み書きや算数といった基礎教育を終了していない住民にも職業技能および新たなライフスキル取得の手助けをしています。



2011年4月のララキア職業訓練校開校式にて、Larrakia Development Corporation, Chairman, Nigel Browne氏(右)と当社黒田会長(左)